

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3770101990
法人名	株式会社ケアサービスかがわ
事業所名	グループホーム春日
所在地	香川県高松市春日町671番地1 (電話) 087-841-8825

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年7月13日	評価決定日	平成19年8月21日

【情報提供票より】(H19年 7月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年 9月 19日
ユニット数	3ユニット	利用定員数計 27人
職員数	16人	常勤 16人、非常勤 0人、常勤換算 16.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円～55,000円	その他の経費(月額)	13,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350円	昼食	500円
	夕食	550円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(7月 2日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	2名	要介護2	8名		
要介護3	6名	要介護4	8名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 83歳	最低	58歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまもと医院 高松大塚歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋3階建てのホームは木調風に整えられて、春日川と田に囲まれた静かな落ち着いた環境の中で、利用者はゆったりとした生活をしている。ホームの理念とする「家族愛」「自由でゆとりのある生活」を、管理者、職員は共通認識し、日々確認して、より良い支援を目指している。利用者の生活は一人ひとりの状況や希望に沿って支援を実施し、散歩・ドライブ・外食・買い物等の外出、各ユニットで工夫した心身の機能低下防止プログラムや訓練、鍵をかけない家庭的な生活等、毎日の支援の実践は意欲的である。医療連携の体制も確保されており、定期的な健康管理、口腔ケア等が行われている。また、緊急時の協力体制も確保され、利用者は安心した生活ができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、運営理念の地域への啓発と地域との交流についてが課題であり、地域の自治会・地域の小学校、幼稚園、保育所等への理解を求めていく工夫が問われた。以後、積極的に自治会、スーパー、商店等へ、パンフレットや事業の案内等を順次実践している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域への啓発は、なかなか難しく、川沿いの道路から少し入り込んだホームの立地条件からも、まだまだ努力が必要とされるが、今年の夏祭りへ向けて、地域の方に来ていただき交流が持てるよう働きかけている。スーパーにチラシを置かしてもらおう等、少しずつ取り組みが形に表れてきている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月ごとの運営推進会議は、地域密着型の事業所の理解と支援をいただけるよう、サービスの向上に反映できるように努めている。自治会、民生委員、婦人会、高松市地域包括支援センター、家族等の委員で、話し合われた内容を活かし、地域の方の支援とホームの存在の意義、役割を具体的に実践し、相互交流ができるようになることが今後の課題である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者のホームでの様子や健康状態は、毎月のホームだよりと、ホームでの状況、健康状態等の報告をきめ細かく行い、家族の要望や意見を聞いている。また、面会時に、管理者や職員が、不安や意見等を受け止め、職員全員が認識した支援ができるよう伝達体制ができています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時の挨拶や買い物、野菜をいただく等、少しずつ交流が広がる中、自治会でチラシを配布したり、婦人会の催し物に参加等、連携を積み重ねている。地域ではバリアフリーの施設等が少ないため、交流の参加機会が制約されるが、今後も積極的な取り組みに期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「家族愛」「自由でゆとりある生活」とし、ホームの意義・役割を理解して、管理者、職員は日常的に実践している。	○	地域との関連性が重視されるようになり、「家庭的な環境の下で」は「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改めたように、「家族愛」の理念も、利用者と共に自分達の言葉で、地域住民との関係性を作りあげていくよう、地域や利用者のニーズ、事業所の状況を取り入れた理念を作っていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有されており、職員は毎朝唱和と確認をし、毎日の支援の中で、利用者一人ひとりに合わせた実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との繋がりや、運営推進会議や折に触れた地域への働きかけ、事業所の実践を伝えているが、交流が深まるまでには至っていない。	○	地域の住民がホームを訪れる機会が少なく、茶話会やホーム行事の参加、利用者との交流の機会を定例化できるよう取り組みが期待される。また、地域活動に参加する中で、バリアフリーや個人情報保護の課題にも取り組んでおり、地域住民の認知症理解を得て啓発できるよう、今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解して、事業者・職員で各ユニットごとに協議し、全員で取り組んでいる。また、外部評価の結果をミーティング、運営推進会議、勉強会で報告し、共有して、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議の委員は、地域の地区組織の責任者であり、ホームの状況報告や課題を協議して、地域の支援と理解をいただいている。	○	地域住民との交流や支援をいただけるように、少しずつ理解を得ているところであるが、運営推進会議での具体的な協議やアドバイスが、ホームにおけるサービス向上、地域の交流の機会が増加等、地域住民の理解と協力が広がるよう努力と工夫が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や、地域包括支援センターの市担当者との連携で指導や情報交換を得ているが、それ以外の機会はない。	○	地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に欠席の場合は、代替りの職員の派遣を依頼し、後日に報告を兼ねた情報交換の場を持つ等、定期的な連絡の機会を持って連携を深め、相談できる関係作りが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りと日常の生活状況の報告は、家族に大変喜ばれ、安心と信頼を得ている。また、面会時には、必ず管理者やケアマネージャー、職員が家族に暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や面会時の家族からの話を聞いて情報を記録し、職員全員に周知し共有して、利用者に支援ができるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、利用者の馴染みの関係を確保できるように配慮しているが、やむを得ない場合は、時期や引き継ぎで補うように努めている。また、離職や各ユニット間の交替による利用者へ負担を、最小限に抑えるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、段階に応じた受講計画により派遣し、カンファレンスや勉強会で復講する等により、専門職者としての教育の機会としている。また、各ユニット間の職員交替も含めた勤務態勢は、職員育成の手段になっている。笑顔で楽しく働ける職場のモットーを大切にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時における他の同業者との交流や、個人的なつながり、同経営主体のホームとは交流や情報交換ができています。	○	関連の事業所や同時期に開設した事業所等と、学習会や交流会、実習生の受け入れを通じた事業所との交流等により、さらに、サービスの質の向上につながる実践的な取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や医療機関等と話し合い、利用者の希望に添うようにしている。また、緊急時の相談や早急なサービスを開始するときは、家族や馴染みの関係者の協力を得て、利用者が安心感を持てるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思い、不安、苦しみ、悲しみ、喜び等を共感し、理解できるように努めている。利用者の得意分野を活かした活動や生活を支援し、職員と利用者がお互いの関係を築いている様子がうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望、一日の過ごし方等を毎日話し合い、情報を記録して共有し、日々の支援に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のケア計画を定例の職員カンファレンスで検討し、気づきや意見、アイデアを活かし、個別の具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの基本的な見直しは、定例の職員カンファレンスで検討し、共有したものとしており、状態の変化や利用者・家族の要望に応じた見直しを行っている。	○	職員からの介護計画の遂行状況、効果などを評価すると共に、もっと家族・利用者の要望に応じた見直しになるように努めたいという意欲に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用の状況に応じて、病院やリハビリの通院・往診の付き添い、特別な外出支援、外泊支援等、必要な支援に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療、歯科、リハビリのかかりつけ医等と連携して、必要な受診、往診等が受けられるよう支援、介助ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りが近くなった利用者に対して、家族、主治医等と十分に話し合いの場を持ち、希望に添えるよう対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員からは、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた対応であり、言葉かけや支援、誘導を含めて適切に対応ができています。個人情報の取り扱いについても留意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のプログラムはあるが、利用者一人ひとりの希望を取り入れた対応で、共有場所の利用やベッドからの離床、食事、入浴等の日常生活の基本についても、利用者ペースで過せる支援がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理、配膳、下膳、洗い物等ができる人は、職員と楽しい会話の中で実施できている。また、箸と湯呑みは利用者の馴染みのものを使用し、食事中も会話が続き、利用者にとって食事が一日の大切な時間としているのがうかがえる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日、午後の時間に、希望に合わせて行っている。入浴を拒む人には、言葉かけや対応の工夫により、チームプレイで一人ひとりの意向に合わせて、くつろいだ気分で入浴できるよう支援ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできること、得意分野で個々の楽しみごとを發揮してもらえるように、お願いや励まし、感謝の言葉を伝えながら支援できている。食事の準備、片付け、洗濯たたみ、野菜作りや花の世話、外出時の利用者同士の助け合い等を、相談しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は利用者、職員間で相談したり、希望を取り入れて、楽しみの行事として大切に扱われている。外出がホームの特徴といえるほどで、季節ごとの年間計画のもの、食事や買い物、散歩等の日常的に出かけられるもの等、工夫した支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、居室は鍵をかけないで、自由な、ゆったりと、安心した生活が送れるように支援している。利用者は、落ち着いた暮らしで、職員の見守りや言葉かけにより支援できている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消火訓練を行っている。また、運営推進会議等で協力を呼びかけている。	○	災害対策においては、防火・消火訓練だけでなく、出火時、災害時の避難訓練、避難経路の確認等を定期的実践できるよう、消防署や地域等と連携し、今後の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分量、排泄パターン等の観察や、チェック、バイタルサイン、体重等の測定、表情や行動の観察の情報は記録され、常時、看護師の健康管理の下に、職員共通認識で支援できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有空間は、落ち着いた空間が保たれ、自然の風の中、清潔で居心地のよい共有空間を工夫している。利用者の作品や各ユニットごとに毎日歌う歌詞の展示等、生活空間づくりに配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と相談のうえ、利用者の思い出の物、使い慣れた物が持ち込まれ、その人らしい生活空間に配慮されている。居室から共有空間までの距離が短いので、気軽に居室と行き来でき、その人の居室の存在感がある支援がうかがえる。		